

— 市議会 6月定例会 高月中学校整備事業を承認 —

たかつき

# 地域力

GOHGA!

<発行>高月地域づくり協議会 広報研修委員会

高月地域のようす	
人口	
男	5,104人
女	5,188人
計	10,292人
世帯数	
	3,263世帯
平成23年6月1日現在	

## 平成25年4月 新校舎開校へ

### 総事業費 約23.5億円

(旧校舎等解体費、建築管理費を含む)

# 長浜市立高月中学校 移転改築決定



校舎の老朽と耐震不足により改築の必要性が切迫している高月中学校改築事業は、一時市町合併の荒波のなかで翻弄され、事業の存続さえ危ぶまれるなど心配されたが、市教育委員会は去る六月定例会市議会に校舎整備事業の全容を明らかにし、現校舎等の解体工事も含め三年間の継続事業として実施する予算を提出した。

市議会は、提出された校舎整備計画を精査し、これまでに実施されている校舎の耐震診断、体力度調査の結果を受け、老朽化あるいは耐震不足による建物の危険度が高いことから解消に向けて校舎改築に必要な予算を認めた。

新校舎は、旧高月町時代から用地取得がすすめられ、すでに造成が完了している高月運動広場運動場(旧高月町民運動場)東に隣接する土地へ移転改築される。

高月中学校の校舎改築は、長浜市との合併以前から高月町の重要課題として位置づけられ、校舎の老朽と耐震不足の解消に努めるべく計画作りがすすめられていた。高月町時代に、中学校の校舎改築は、少子化が著しく進む社会のなかでの義務教育環境のあり方を十分見据えたいえで行うべきだと、幼・小・中を通じた教育システムづくりに位置付けられたものでした。

高月中学校の校舎改築は、長浜市との合併により旧高月町から事業を引き継いだ市教育委員会、市内の類似する中学校との均衡を図りながら、築後四十年を経過する建物

成十八年に実施された耐震診断では校舎の一部に強い地震の振動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が高いと判断されたこと。また、平成二十二年に実施された校舎の耐力度調査においても老朽化が激しく、建物の危険な状態の結果が高いたる結果がでたことから、子どもたちに安心・安全で快適な教育環境を提供しなければならいとし、昨年度改めて校舎建築設計を行いました。

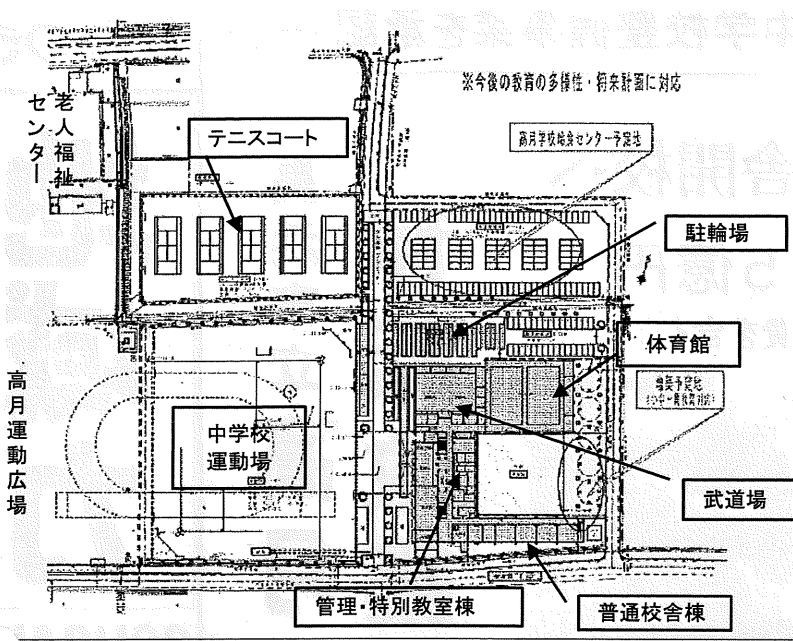
### 校舎建築は二年がかりで

新校舎は、現在地より凡そ六〇〇m西の高月運動広場、高月幼稚園、高月老人福祉センターが隣接する、すでに造成された約三畧の土地に三階建校舎、体育館、武道場、運動場、テニスコートなど全面移転されま

校舎建築工事は、平成二十三、四年度で行われ、新校舎は平成二十五年四月の開校をめざします。また現校舎は二十五



旧高月町民にとつて高月中学校の移転改築は、高月町最後の事業として注目を集めるものでした。市町合併という大きな変化にもまれ、事業が継続されるか心配されたが、ようやく整備事業の全容が明らかになりました。ひと安心となった。市予算に計上されたからには一日も早く建築工事等が着手され、安心安全で快適な高月中学校新校舎



開校が待たれます。市教育委員会に新校舎の整備計画について伺ったので紹介します。校舎等は、左図のように配置される予定です。高月運動広場の東側に中学校運動場を挟んで学校建築物が建築されます。管理・特別教室棟、普通校舎棟は鉄筋コンクリート造三階建て延床面積四、八八〇㎡の建物です。その北には柔道

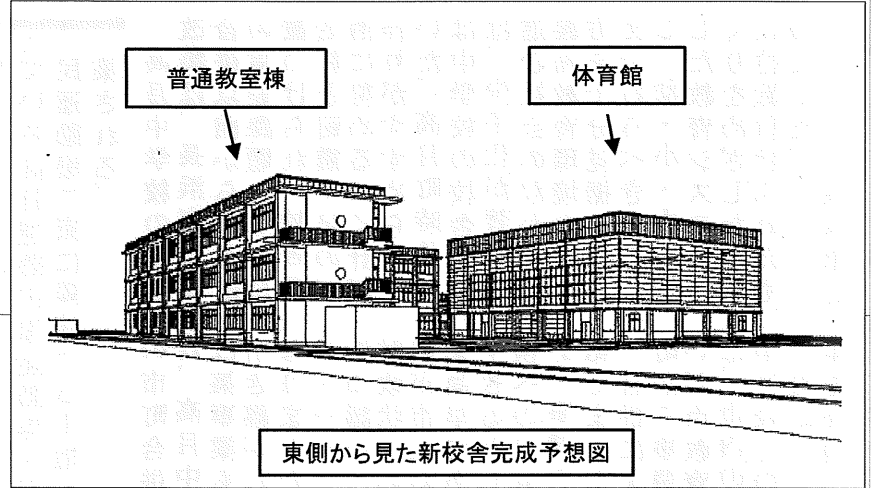
学校は、生徒が先生や仲間とともに授業や運動などを行いながら一日の大半を過ごす場所となることから、何よりも安心で安全な環境が保たれていなければなりません。そのためにきめ細かく安全に

### 落ち着いた学校生活を願って

をすする鉄骨造平屋建、延床面積八一九㎡の武道場と同じく鉄骨造平屋建、延床面積一、一〇八㎡の体育館が逆コの字型に配置され、中央には多目的に利用できる中庭が設けられています。建物の北には、全生徒の通学自転車を受容する屋根付き駐輪場や教職員の駐車場も整備されます。中学校運動場の北側には、五面のテニスコートがあり、その東側には一般開放や参観等に配慮して駐車スペースも確保されています。建物は、周辺から学校内部の見通しがきくように配置され、空きスペースには導線にあわせて植栽が施され、緑と光

配慮し、エレベーターの設置、各階に多目的トイレの配置、段差の解消など施設のバリアフリー化をすすめる、外部からの不審者の侵入を防ぐフェンスの設置、もちろん防犯カメラ、門扉・通用口こ

のあふれるアプローチがつけられていきます。



鍵の設置など防災安心感のある施設づくりがめざされています。また、自然光をできるだけ取り入れられるよう配慮した廊下、風通しのよい部屋、普通教室や廊下の内装には木質化が施され温かみを感じられる空間づくりもされています。そして何よりも全教室冷暖房が完備され学習環境は随分高まるという事です。

また、不登校をはじめとする学校不適応の問題、理解度別やグループ分けによるきめ細やかな指導、学校ICT化、将来における三十五人学級への対応も考慮し、校舎には多目的教室、少人数教室を設けています。このように中学校と周辺の連携・一体となり様々な問題や教育の多様性に対応ができるよう施設がつくられます。

## 多様な学習形態への対応も考えて

新校舎は内外ともに数々の工夫が施されていきます。ここでは生活が過さず生徒たちにとって豊かな人間性を育む空間になることでしょう。

また、不登校をはじめとする学校不適応の問題、理解度別やグループ分けによるきめ細やかな指導、学校ICT化、将来における三十五人学級への対応も考慮し、校舎には多目的教室、少人数教室を設けています。このように中学校と周辺の連携・一体となり様々な問題や教育の多様性に対応ができるよう施設がつくられます。

移転改築用地の周辺には高月幼稚園や老人福祉センター、高月運動広場(体育館、運動場など)が集まった場所です。幼稚園・小学校・中学校との連携教育や学校周辺の社会教育施設などを利用した地域住民と中学生との交流や住民の学校への参画も期待でき地域の教育力での活用を図ることも可能です。